[瑞龍寺]探訪レポート

高岡駅から10分、ここを右手に進むと瑞龍寺に突き当たる

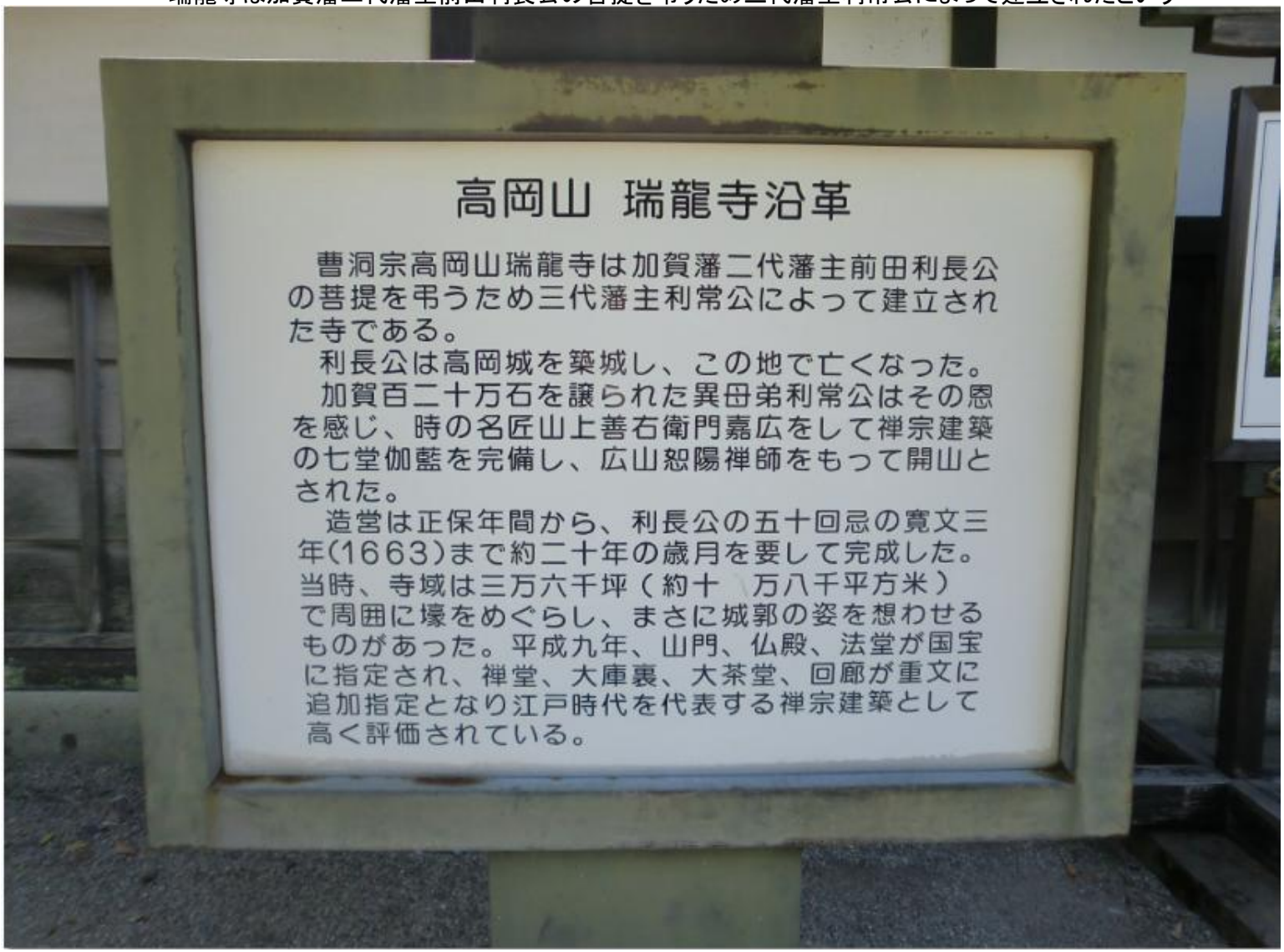
正面遠方が瑞龍寺

正面は総門

高岡山瑞龍寺とある

総門の向こうは山門/右手に見える屋根は大庫裏

瑞龍寺は加賀藩二代藩主前田利長公の菩提を弔うため三代藩主利常公によって建立されたという



建物は江戸初期の禅宗寺院建築である

国宝：山門、仏殿、法堂/重要文化財：禅堂、大庫裏、大茶堂、回廊

総門

正面に山門、右手の屋根は大庫裏、左手の屋根は禅堂

総門/重要文化財/正保年間(1645年～1648年)の建立/薬医門形式

薬医門（やくいもん）－ 鏡柱から控え柱までを取り込む屋根を持つ。本来は公家や武家屋敷の正門などに用いられたが、扉をなくして医家の門として用いられたのでこの名前がある。(ウィキペディアより)

正面は山門、右手の屋根は大庫裏、左手の屋根は禅堂

山門

回廊越しに大庫裏の屋根が見える

右手下に「浴室跡」の説明板がある

「浴室跡」

浴室跡

浴室は東司とともに七堂伽藍の一つに数えられる。瑞龍寺の浴室は、寛文年中（1661 ～ 1672）この場所に建てられ、延享3年(1746)の火災で焼失したが、寛延2年(1749)に再建されたとみられる。その後、幕末から明治初頭の間に取り壊されたものと思われる。

規模・構造は、正面四間、側面七間、切妻造り、柿葺、妻入りの建物であった。また壁や天井は漆喰塗りにして防火に配慮した構造としている。

入口を入ると四半敷石の外室があり、その奥には三尺ほど高く床を張った内室があり、その中央に蒸風呂がある。さらに奥には竈の焚場を設け、土間となっている。

外室中央には浴室の本尊である跋陀婆羅菩薩の木像と十六開士の尊像が安置され、その両側には入浴準備の席である腰掛けが設けられている。

内室への入口は左右二ケ所に段が設けられ、床は水を流すための勾配をつけて中央の溝に流れ込む工夫がなされている。中央には屋根を付けた蒸風呂が二つあり、右のものが向かい唐破風の一間×一間半、左が切妻の一間×一間の規模となっている。

蒸風呂入口は蒸気の調節機能を兼ねているため、三段の引違戸となっている。内部には湯釜が設けられ、右手には洗浄のための水槽を置き、左手は焚場への出入口としている。

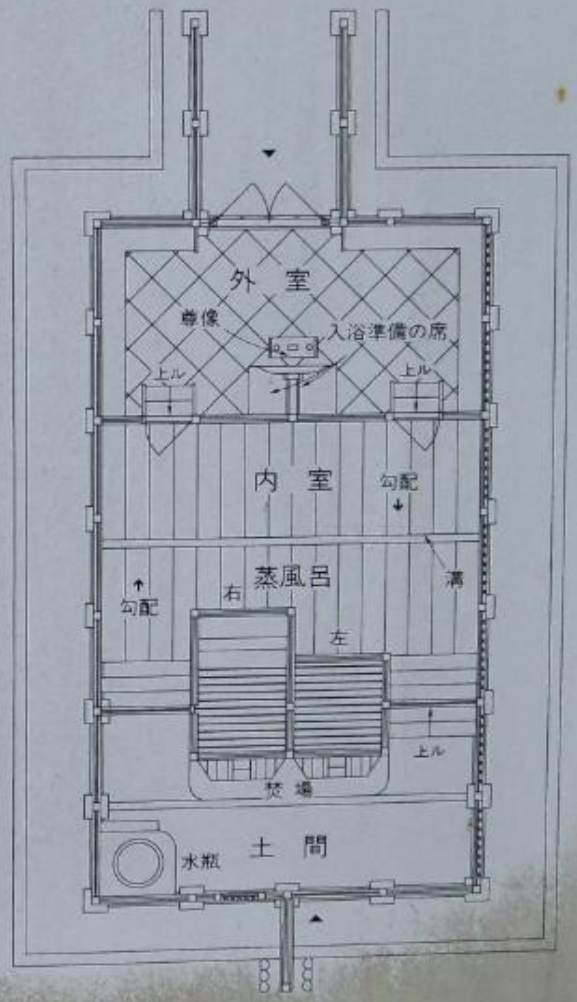
焚場には焚口と水の入口が設けてあり、床は叩き土間にして水を流すための勾配をつけ、中央には排水の溝が掘られている。土間の突き当たりには外への出入口があり、その左手は焚木置場とし、右手は給湯用の竈と水瓶が設けられている。

高岡市教育委員会

Bathhouse

A bathhouse is one of the seven halls of Zen Buddhist temple architecture. Zuiryuji Temple's bathhouse was first built at this spot between the years of 1660 and 1670, but later burned down nd was rebuilt. Finally in 1860, it was torn down. It is believed that there were two steam baths in this bathhouse.

In Zen Buddhism, the bathhouse is not simply for the purpose of washing one's body, but also



浴室平面図

振り返った反対側には「東司跡」がある

東司（七間浄頭）跡

東司は七堂伽藍の一つに数えられ、また、禅堂、浴室とともに三黙道場の一つである。瑞龍寺の東司は、寛文元年（1661）この場所に建てられたが、延享3年（1746）の火災で焼失し、その後まもなく再建されたと思われる。

明治に入って、瑞龍寺は廃仏毀釈や加賀藩の援助停止によって経済基盤を失ったが、寺を再興するため本来東司の守護神で不浄を転じて清浄とする烏芻沙摩明王木像（県指定彫刻）を禅堂に移し、東司は解体された。同時に禅堂は大改築の末に烏芻沙摩明王堂に改められたが、昭和60年から始まった復元修理工事によって再び禅堂に復元された。

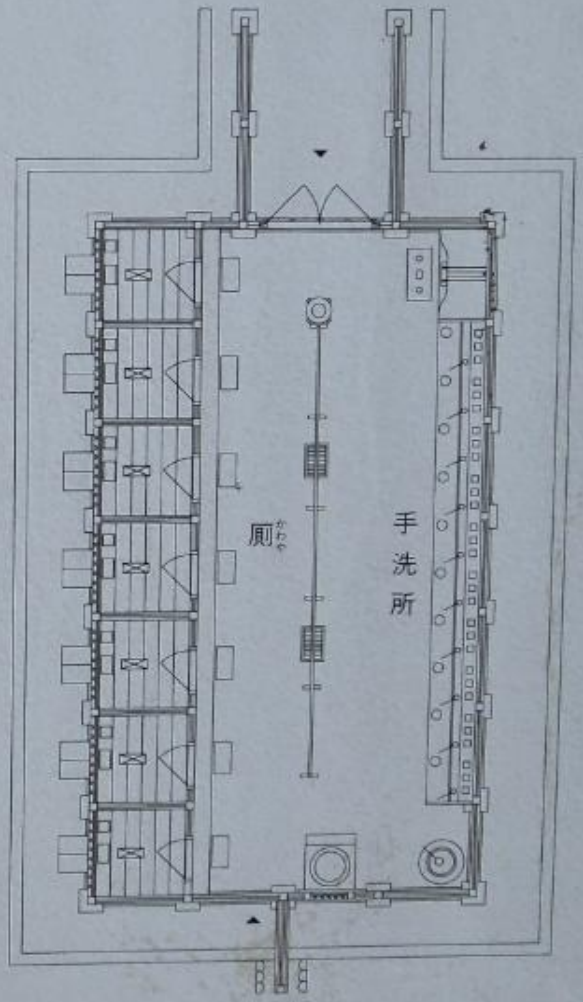
瑞龍寺では、東司のことを七間浄頭と呼んでいる。これは便所の掃除や給水等の管理をする者を浄頭と称したことに由来し、その名のとおり桁行は七間、梁間は四間の規模を有していた。

東司は、山門右脇手前に位置する浴室と相対してそれぞれ回廊で結ばれて両翼形をとっており、平等院鳳凰堂と同様の構成となっていた。

平面は回廊取り付きの妻を入り口にして、右側に一間の四方を一室とした七つの厠を置き、左側を手洗い所としている。

修理事業に伴う発掘で、七つの便槽と柱跡が確認されている。便槽部分は長さ2ｍ×幅70cm、深さが50ｃｍあり、穴は側柱通りより外側へはみ出していることから、外部から汲み取る方式であったものとみられる。また、便槽の底板と側板の木片及び隅部の止め釘が出土しており、木製の便槽であったことがわかっている。

高岡市教育委員会



東司平面図

Tosu (Shichikenjinzu)

The Tosu is special word for the toilet, one of the seven halls of Zen Buddhist temple architecture. Zuiryuji temple's toilet was called "Shichikenjinzu." It was first built at this spot in 1661, but later burned down and was rebuilt. During the early years of the Meiji Period (1860), it fell into disrepair as a result of the suspension of support from the Kaga Clan, and was therefore torn down.

In Zen Buddhism, the Tosu is not simply a toilet, but also one of the places used for the

山門/国宝/文政三年(1820年)の再建

正面に仏殿が見える

金剛力士像

正面は仏殿

回廊内

回廊内側から山門を見る

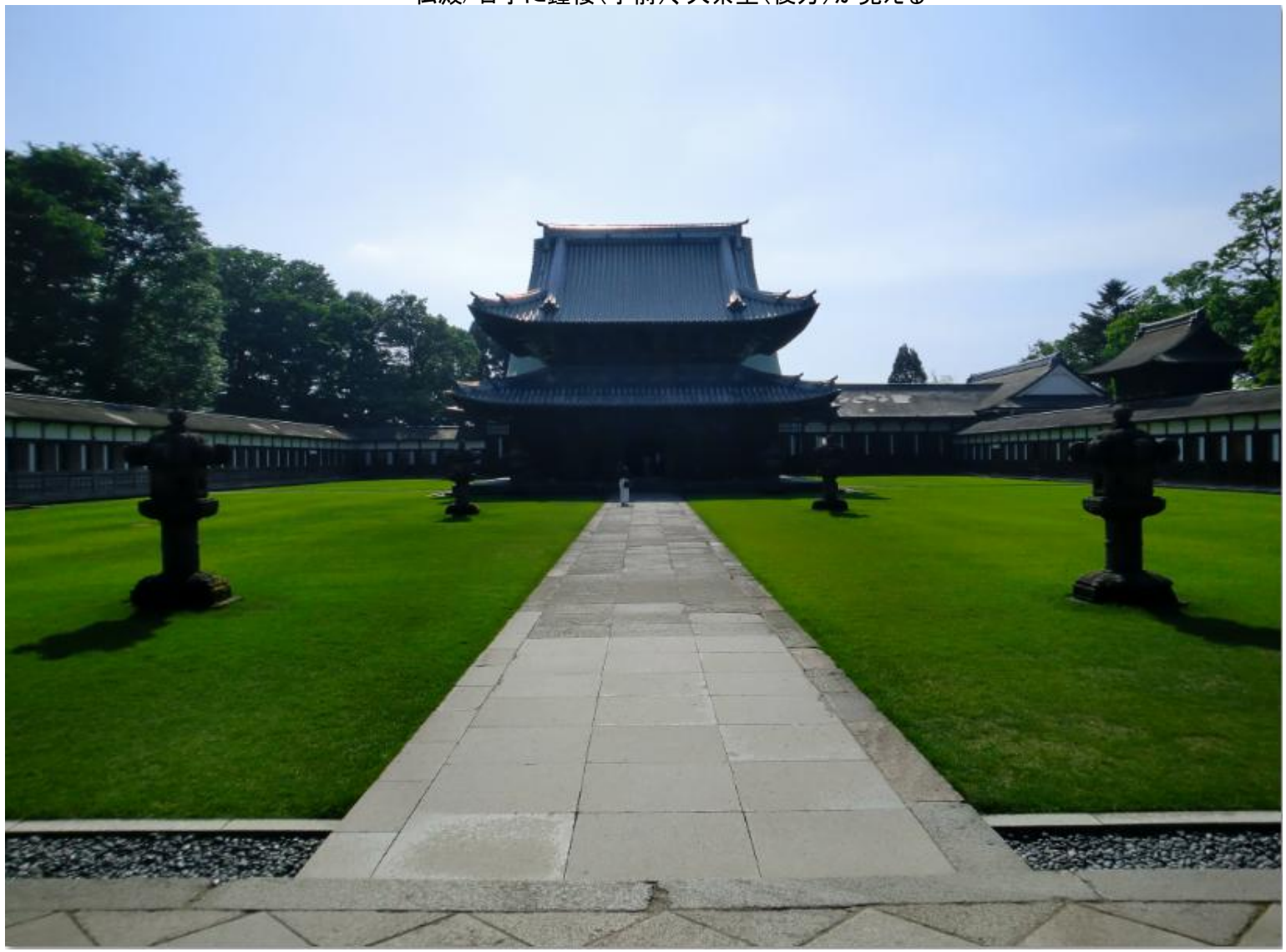
大庫裏/左手は鐘楼、その左が大茶堂

大庫裏/重要文化財

禅堂

禅堂/重要文化財

仏殿/右手に鐘楼（手前）、大茶堂（後方）が見える



仏殿/国宝/万治二年(1659年)に建立/総欅造り

大庫裏

禅堂

回廊内側から山門を見る

大庫裏

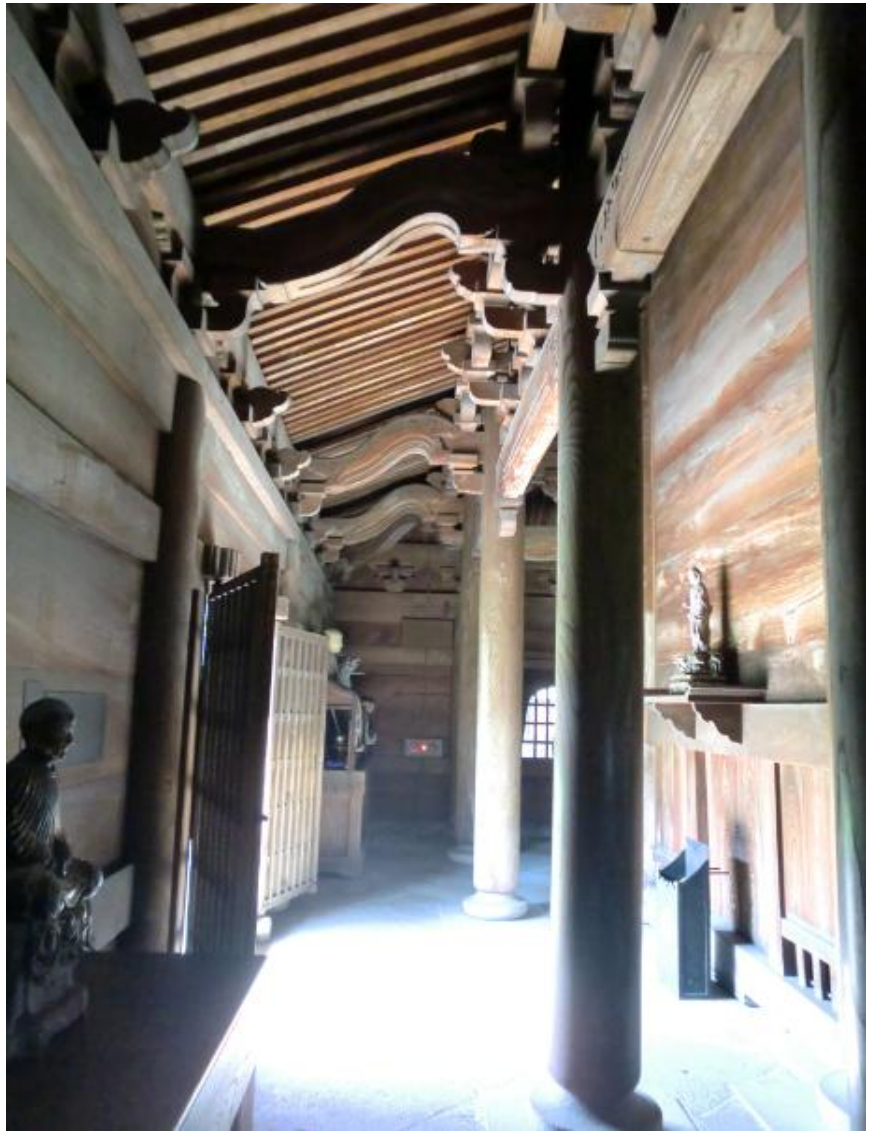
禅堂

仏殿左側面

仏殿正面

仏殿右側面

仏殿内部



鐘楼

大茶堂

法堂

法堂/国宝/明暦年間(1655年～1657年)に建立/総桧造り

法堂内部

回廊内部

法堂から仏殿を見る

屋根は重さ47屯分の鉛板をもって葺かれているという

鐘楼と大庫裏（右手）

仏殿

禅堂

石廟/富山県指定文化財

瑞龍寺石廟

富山県指定文化財

瑞龍寺石廟（せきびょう）

前田利長公は本能寺の変後　織田信長公父子の分骨を迎えてその霊を慰めたと伝えられる。利長公の菩提寺瑞龍寺を造営した時、開山広山（こうざん）恕陽（じょよう）禅師が利長公父子も加えて同じ形式の五基を建造したのがこの石廟の由来である。

廟の石材は淡緑色の凝灰石（俗称越前笏谷石（しゃくたにいし））を用い壇上積の基礎の上に立つ切妻型石廟建築である。

廟内の宝篋印（ほうきょう）塔は越前式の月輪装飾を施したもので越前の国を源流とし、加越能三州に分布している。

石廟は向って右から前田利長公（高岡開祖）前田利家公（加賀藩祖）織田信長公（利長夫人玉泉院の父）織田信長公側室　織田信忠公（信長公の子息）の五人のもので、中でも利長公のものは壁面に二十五菩薩を刻んだ代表的な優品である。

これら五基の石廟は地方政治史上、又石造建築史上の貴重な資料であるところから、昭和四十五年三月二日富山県指定文化財史跡に指定された。

右手が前田利長公、左手は前田利家公の石廟

前田利長公の石廟（分骨廟）

宝篋印塔が納まっている

右手から前田利家公、織田信長公、同室正覚院、織田信忠公の石廟（分骨廟）

法堂側面

茶室

銅板葺き替え以前の法堂の鬼瓦

前田年長公墓所

さて、近くに前田利長公の墓所があるという

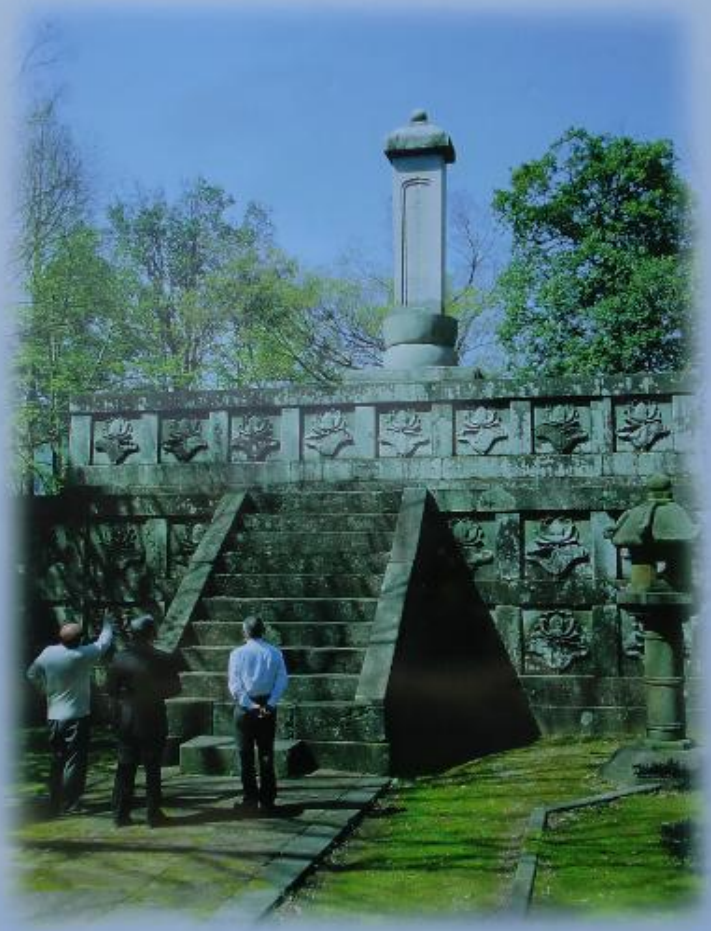
武将では日本最大

高岡の開祖 前田利長公墓所

加賀藩二代藩主・利長公（一五六二～一六一四）は関野に新しい城を築き、街づくりを進めて「高岡」と命名、この地で他界されました。

利長公を敬愛された異母弟の三代藩主・利常公（一五九三～一六五八）が三十三回忌までに建立された壮大なお墓です。当時は五万余坪（現在は約一万平方メートル）の敷地に墓守寺を配置、墓碑は豪壮な戸室石の基壇を含めて高さ十二メートルの偉容を誇ります。

国宝瑞龍寺・八丁道とともに先代藩主への厚い思慕の念と百万石の力量で造りあげた石の建造物として高い評価を得ております。



利長公史跡の位置関係

利長公が十四年間、居城された二上山の守山城から瑞龍寺は真南に位置し、その延長線は利家・利長親子の出身地・名古屋市荒子を指す。また守山城と墓所の線上に高岡城が位置し、その延長線は徳川家康公の岡崎城を指している。このため瑞龍寺の基軸に対した八丁道は北へ七度傾らせ、墓所の基軸と八丁道は直角に交差させるように配慮されている。

ふるさとへの厚い想いと当時の複雑な情勢の中で生き残り、お家安泰を確立した利長・利常両公の想いがかいま見えるようでもあります。

国宝瑞龍寺保存会・高岡ロータリークラブ

元来た道を戻って進む

前田利長公之像

八丁道と呼ばれる菩提寺と墓所を結ぶ参道

八丁道

万葉のふるさと・伝統工芸の街
高岡タウンマップ
JR高岡駅
八丁道
瑞龍寺
前田利長墓所
高岡大仏
高岡城址
高岡市立中央図書館
高岡市立美術館
高岡市立博物館
高岡市立伏木小学校
高岡市立下関小学校
高岡市立高陵小学校
高岡市立高陵中学校
高岡市立高陵小学校
高岡市立高陵中学校
高岡市立高陵小学校
高岡市立高陵中

前田利長公墓所とある

前田利長墓所

前田利長墓所

国指定史跡　加賀藩主前田家墓所

前田利長墓所

平成二十一年二月十二日指定

加賀藩主前田家墓所は、高岡市の前田利長墓所と金沢市の野田山前田家墓所から成る近世大名家の墓所です。

前田利長墓所は、慶長十九年（一六一四年）に五十三歳で生涯を閉じた利長の三十三回忌にあたり、三代利常が造営したものです。近世段階の墓域の総面積は、約三万三千㎡（一万坪）と広大で、大名個人墓所としては国内屈指の規模を誇ります。二重の堀で囲まれた墓域中心部には、幅十五、五m、高さ五・〇m（石塔上までは十一・九m）の御廟＝墳墓があり、その立面は狩野探幽下絵と伝承される百三十枚もの蓮華図文様が彫刻され、荘厳な印象を与えます。

戸室石で全面を覆う外観は、方形土盛り墳墓形式の前田家墓所とは異なるものです。しかし、学術調査の結果、内部の構造は歴代藩主墓同様の土盛り墳墓であることが判明しました。

また、堀や土塁、石燈籠の配置等は正方形区画を意図しており、初代利家墓（幅二十m、高さ五・七m）を上回らない規模で築いています。これらは、前田家墓所の造営様式を踏襲したものであり、我が国の近世大名墓所のあり方を知る上で欠かすことのできない史跡です。

前田利長墓所近世墓域復元図

高岡市教育委員会

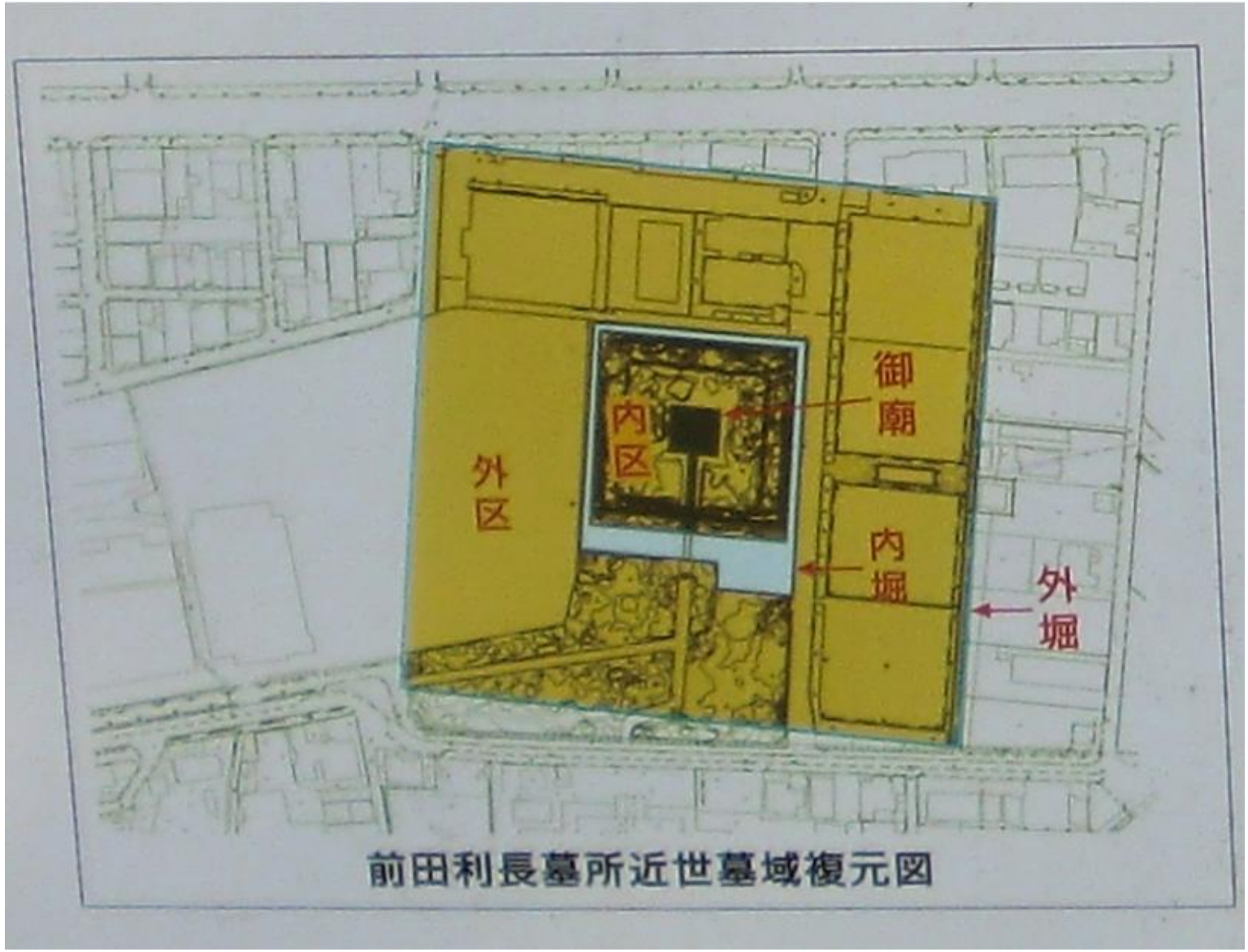
いよいよ正面が前田利長墓所内区

石燈籠もこんなに大きい

子供の背丈と比べてほしい

御廟である墳墓

石塔上までは約12メートルあるという



前田利長墓所近世墓域復元図

振り返って見る

内区を囲む内堀

裏から見た墓所/ほぼ古墳状態

内堀が一周している

この建物は付近にあった高岡市立下関小学校

デザインにも城下町の雰囲気を壊さない配慮がみてとれる

参考ホームページ

http://takaoka.zening.info/zuiryuji/index.htm

http://blogs.yahoo.co.jp/ki_ki0616/22933340.html

http://sinn.dip.jp/kesiki/toyama/zuiryuuzi1.htm

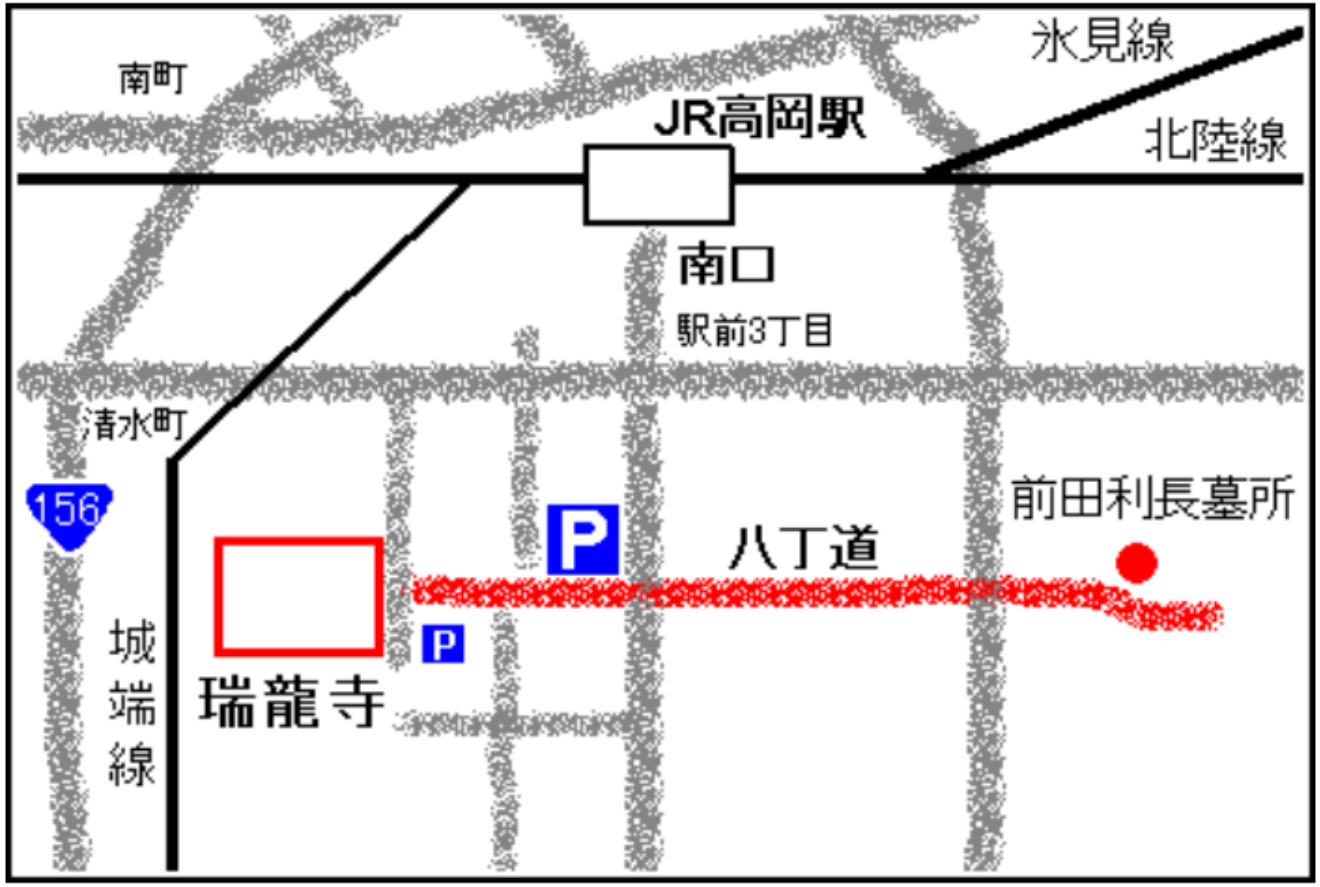
http://www1.tst.ne.jp/h_taka/takaoka/takaoka03.html

http://www1.tcnet.ne.jp/shima/zuiryu.htm

http://tempsera.at.webry.info/200801/article_17.html

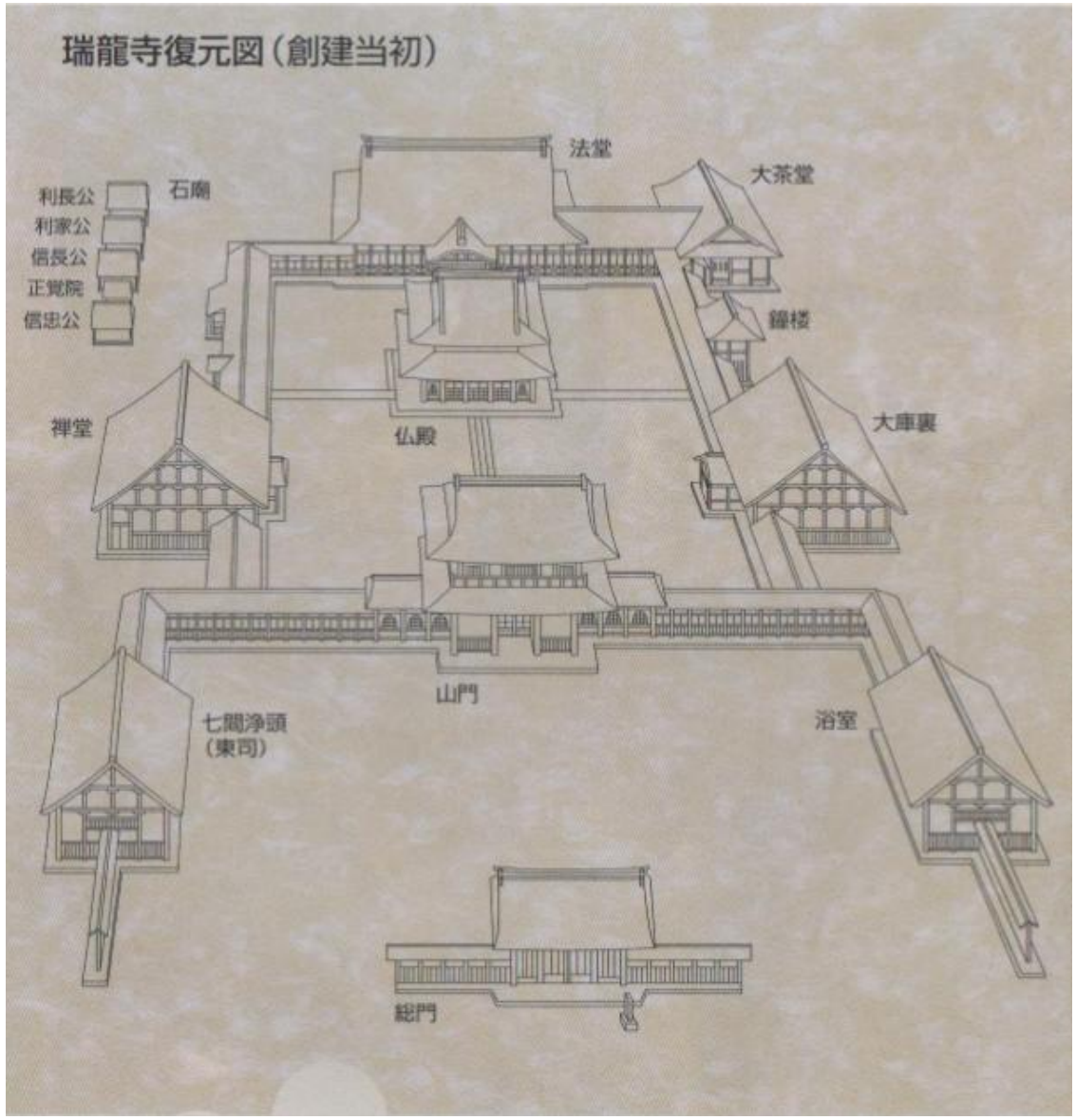
※ 瑞龍寺は加賀藩お抱えの名匠・山上善右衛門嘉広が建築したのであるが、善右衛門あh他にも多くの建築を手掛けており、加州那谷寺の諸堂も建築しているという。

瑞龍寺 地図



インターネットより

参考資料


瑞龍寺復元図（創建当初）
法堂
大茶堂
石廟
利長公
利家公
信長公
正覚院
信忠公
鐘楼
禅堂
仏殿
大庫裏
山門
七間浄頭
（東司）
浴室
総門

■ 石廟（県指定文化財）

Sekibyo
(Prefecture designated cultural properties)

前田利長、利家、織田信長、同室正覚院、織田信忠の分骨廟。石廟の中には、宝篋院塔がまつられている。

石廟